

同世代の感性を共有しよう！私たちのオススメ！！

# SUPPORTER'S SELECTION

サポーターのみなさんに、最近読んでオススメしたい本、以前読んで、今でも心に残っている本などを紹介していただきます。本選びの参考にさせていただければ幸いです。

**名古屋** **柴垣汐里さんオススメ**

『映画 兄に愛されすぎて困ってます』  
豊田美加 著 夜神里奈 原作 松田裕子 脚本  
(小学館文庫 2017) 名図開架 913.6:To83

あなたは大切に思っている家族から、意外な真実が明らかされたらどうしますか？この物語はある兄妹のお話です。妹・せとが好きな人に振り回されてきました。しかし、突然モテ期が到来！と思いましたがやはり上手くいかぬみたいですね。なんと兄・はるかに恋路を邪魔されていたのです。禁じられた恋と思いきや、兄と妹の恋の行き着く先は、意外な真実が！きゅんきゅんして、笑って、泣ける作品で、家族に対する想いがいっぱい詰まっています。心温まる一冊です。

**名古屋** **鈴木菜々さんオススメ**

『ツナグ』  
辻村深月 著 (新潮社 2012)  
名図開架 913.6:Ts44

一生に一度だけ欠けた人に出会えるとしたら、あなたは誰に会いたいですか？この本は、使者(ツナグ)の不思議な力による、生者と死者の、一晩だけの邂逅の物語です。5編に分かれたお話の中では、生者と死者、そして両者を繋ぐ使者の交差する想いが、とても繊細に描かれています。それぞれの出会いや再会は、ハッピーエンドとは限りません。しかしそれでも、残された者は死者への想いを抱えて生きていく、そんな姿に胸を打たれる一冊です。

**名古屋** **稲垣澄香さんオススメ**

『シャーロック・ホームズの冒険』  
コナン・ドイル 著 延原謙 訳 (新潮文庫 2011)  
名図開架 933.0:89

ロンドンで巻き起こる奇怪な事件を解決するのは、名探偵シャーロック・ホームズと助手で友人のワトソン博士！伶俐な推理と魅力的な個性で読者を魅了します！意表をつく事件の展開、ユーモア溢れる名探偵と助手のコンビネーションは必見です！【赤毛組合】【まだらの組】など、世のホームズファンならよく知る作品10編が掲載されています。短編集であるため、初めての方でも読みやすい一冊となっています。

**名古屋** **生駒拓巳さんオススメ**

『星の子』  
今村夏子 著 (朝日新聞出版 2017)  
名図開架 913.6:144

この物語は原因不明の湿疹に苦しんでいた幼い主人公ひろを救いた一心で両親が「あやしい新興宗教」にのめり込んでいく場面から始まります。その信仰が家族を崩壊させていく様が主人公の目線から淡々と、そして静かに描かれています。複雑な環境で揺れ動く心の機微を繊細に描写したラストは必見です。自分の立場を見つめ直すきっかけとなった一冊でした。お時間がありましたらぜひ読んでみてください。

**名古屋** **佐藤優さんオススメ**

『ルパン、最後の恋』  
モーリス・ルブラン 著 平岡敦 訳  
(早川書房 2012) 名図開架 953.1:49

著者ルブランの死後70年を経て発表された「ルパンシリーズ」の幻の遺作、最後の話です。この作品は作者が病気に罹り、十分な推敲ができず、未完となった作品で、読んでみると分かるのですが、唐突な展開や文章の素っ気なさが残っています。しかし、内容を見てみると、幾多の恋と冒険を経て、ルパンが辿り着いた心境に感慨深いものがあります。ルパンが好きという人にはおすすめでいいと思います。

**名古屋** **織田彩花さんオススメ**

『手塚治虫小説集』  
手塚治虫 著 (筑摩書房 2001)  
名図開架 913.6:Te95

数々の名作を世に送り出した漫画家、手塚治虫ですが、ショートショートなどを書いていたことを知っていますか。ショートショート、シナリオ、ジュブナイル、ファンタジーの4つのジャンルの話がこの本には収録されています。有名な「鉄腕アトム」や「三つ目が通る」のシナリオも収録されています。手塚治虫の小説はストーリー性に富んだものになっており、面白い内容です。漫画だけでは分からない手塚治虫の世界を少し覗いて見ませんか。

**名古屋** **井下茜さんオススメ**

『もの言えぬ証人』  
アガサ・クリスティ 著 加島祥造 訳  
(早川書房 2003) 名図開架 938:C58:14

私立探偵のボアロに巨額の財産をもつ老婦人から命の危機を訴える手紙が送られてきた。しかし、その老婦人はなんと問題のある遺言状を遺して二ヶ月も前に亡くなっていたのだ。ボアロとボアロの友人であるヘイスティングズは死者からの依頼に答えるとともにこの事件の裏に隠された真実の愛を見つけていく。この作品はアガサ・クリスティ作品の中ではあまり知られていない方ですが、とても興味のある一冊になっていますので是非読んでみてください。

**名古屋** **吉田真友さんオススメ**

『謎解きはディナーのあとで 2』  
東川篤哉 著 (小学館 2011)  
名図開架 913.6:H55:2

超お金持ちのお嬢様である麗子と、その執事で毒舌な影山の2人が個性豊かな人達と事件を解決していく、推理小説です。ドラマ化や映画化の際には、人気俳優たちがキャスティングされており、脚光をあびました。この本には、ドラマ化等されなかった話があるので、小説を読んだことのない人にも楽しめると思います。

**名古屋** **小島友里亜さんオススメ**

『五つ星をつけてよ』  
奥田亜希子 著 (新潮社 2016)  
名図開架、名図開架 913.6:O54

SNS社会に翻弄される人々の6つの短編集です。愛知大学の卒業生が執筆した小説としか知らず、タイトルと表紙に惹かれて読みました。この小説のオススメポイントは、読みやすい文体かつ短編集なので普段本を読まない人でも気になる話から読めるというお得感です。迷ったら表紙が最初の話から読むのがオススメです。現代ならではの話なので、読んでみると思い当たる節があるかと思えます。SNSの評判に振り回されて疲れてしまった人こそ、スマホを置いてこの本を読んでもらえると嬉しいです。

**名古屋** **香田麻那さんオススメ**

『時間のかかる読書：『機城』を巡る素晴らしきぐずぐず』  
宮沢肇 著 (河出書房新社 2009) 名図開架 910.268:Y77

横光利一の『機城』を11年間かけて読んだエッセイ。これは数十ページの短編小説をできるだけ長い時間をかけて読むという、真剣な読書の記録です。『機城』の書評というよりも、作者の11年の読書を追体験し、混乱しつつも楽しめるという点がこの本一番おもしろいところかと思えます。数行毎に立ち止まり、単語の一つ一つもじっくりと、時にぐずぐずと読んでいく…読書の一つの理想の形かもしれません。『機城』を読んだことがない人も大丈夫。この本に丸ごと収録されているので安心してこれだけ借りてください！

**名古屋** **角谷有理奈さんオススメ**

『キケン』  
有川浩 著 (新潮社 2013)  
名図開架 913.6:A:71

みなさんは全力で何かに取り組んだことはありますか？この本は危険な実験や破壊行為を全力で行う理系男子大学生の青春時代のお話です。男性が共感できる様なリアルなストーリーなのはもちろん、女性も男子になりたいと思うほどロマンと理想が詰まった素晴らしい物語になっています。疲れた時、泣きたい時、悲しい時、爽快感のあるこの本をあえて読んでリフレッシュするのはいかがでしょうか？

**名古屋** **野尻晴葉さんオススメ**

『英雄の書 上・下』  
宮部みゆき 著 (新潮社 2012)  
名図開架 913.6:M71:1,2

「何が善で、何が悪いものか。その境界線を、どこに引く？」友里子の中学生の兄は、同級生をナイフで刺し、そのまま行方不明になってしまう。兄が心配な妹は、彼の部屋で「本の声」をきく。英雄に憑かれてしまったという兄を救うため、物語の世界での過酷な冒険が始まる。著者の物語に対する考えが面白い。正義とは何か、なぜ人は物語を紡ぐのか、読んだ人に新しい定義を見せる、壮大なファンタジー。

**名古屋** **新庄有喜子さんオススメ**

『ハリネズミの願い』  
トーン・テレナン 著 長山さき 訳 (新潮社 2016)  
名図開架 949.32:Te32

「親愛なるどうぶつたちへ。ぼくの家にお遊びに来よう、キミたちみんなを招待します。…でも、だれも来なくてもいいよ。ぼくです。」主人公は聴病なハリネズミ。ある日、みんなに遊びに来てもらおうと招待の手紙を書きはじめるが、誰かが来ると思うだけで不安になり、手紙を送る勇気が出ない。果たしてハリネズミはどうするのか… 自分に自信が持てず、あと一歩の勇気が出ない。少し弱気になった時、心温まり元気づけられる一冊です。

**名古屋** **譽田紗菜さんオススメ**

『もののおはれ』  
ケン・リュウ 著 (早川書房 2017)  
名図開架 933.1:73

地球上に巨大惑星が衝突することが判明し、人類は全世界の千二十一名を宇宙船に乗せて宇宙に向けて出発した。あれから17年、乗組員である清水大翔は、自分が8歳の時の日本に残った父と母との思い出について振り返る…。日本人独特の感性である「もののおはれ」について、大翔の父が松尾芭蕉の句を通して優しく解説してくれます。そしてその考えを受けた大翔の行動にも、もののおはれ…という気持ちとあなただけの感動はあふれます。

**名古屋** **秋田桃子さんオススメ**

『食べる日本語』  
早川文代 著 (毎日新聞社 2006)  
名図開架 H46

「とろとろ」「ほっこり」などのオノマトペや表現、歴史や意味の解説がたくさん載っている。読むだけでお腹が空いてくる作品です！この本の中で、私は「にちゃんちゅ」や「至味(しみ)」など、日常で使えたらいい(?) 新しい言葉がたくさん出会いました！あなたもこの本を読めば、食レポのプロになれちゃうかもしれないよ！ページごとに描かれている可愛いイラストも注目ポイントです★

**名古屋** **目黒識貴さんオススメ**

『英国一家、日本を食べる』  
マイケル・ブース 著 西谷のび 訳 (亜紀書房 2013)  
名図開架 383.8:B64

NHK Eテレの大人気アニメの原作本！食べるの大好き、好奇心旺盛なイギリス人ジャーナリストが奥さんのリス、息子のアスガーとエミルをつれて、100日間の日本の旅の中で美味しいものを食べ尽くす！美味しいものに対しての考察が深く、日本人としても「日本食」についてもう一度考えさせられる一冊。これを読めば、旅行に行きたくなくなることはない！

**豊橋** **杉浦啓介さんオススメ**

『現代建築のトリセツ』  
摩天楼世界一競争から新国立競技場問題まで  
松葉一清 著 (PHP研究所 2016) 名図開架 523.06:Ma73

2020年東京オリンピック、新国立競技場建設問題では、ザハ・ハテド、キールアーチ、デザインビルド…など「現代建築」の固有な専門用語が議論の中で飛び交った。これだけ世間の関心を集めたのに、その歴史や作品の価値は知らないことばかり。考えてみればそもそも現代建築の「現代」っていつから？「現代建築を理解すれば、わたしたちが日常を送っている世界の本来が見えようになるはず」

**豊橋** **斧田汐谷さんオススメ**

『世界の城塞都市』  
千田嘉博 監修 (寄野社 2014)  
名図開架 290.9:Se22

壁や堀、崖や水といった防御施設で囲まれた街ー城塞都市。その歴史は古く、世界四大文明が栄えた時代の紀元前4000年頃に誕生したと言われ、戦争や社会の発達を背景に世界各地で様々なものが造られてきました。その多くがすでに失われてしまっていますが、世界にはまだ当時の形、様子を伝える城塞都市が僅かながら残っています。歴史建造物であり、且つとても魅力的な「城塞都市」が、美しい写真とともに紹介されています。

**豊橋** **山川佳菜さんオススメ**

『日本の七十二候を楽しむ 一日一頁の暮らし』  
白井明大 文 有賀一広 絵 (東邦出版 2012)  
名図開架 449.34:Sh81

日本には春夏秋冬の四季だけではなく、一年を二十四等分した二十四節気、七十二候があることを知っていますか？本書では「東風凍を解く」「桃始発て笑う」などの名前がつけられている七十二候からみた旧暦の暮らしをテーマに、「季節のもの」がカラーイラストで紹介されています。本書を読めば季節の細かな変化に気づき、楽しめるようになるかもしれません。

**豊橋** **大野真知子さんオススメ**

『風が強く吹いている』  
三浦しをん 著 (新潮社 2006)  
名図開架、名図開架 913.6:M67

箱根駅伝を見たことはありますか？この物語は誰もが知っているであろう箱根駅伝を舞台にした話です。寛政大学の学生が暮らす竹青荘、通称アオタケの住人に一年生の蔵原走が加わり、住人の一人、四年生の清瀬灰二のアオタケの住人に箱根駅伝に出場するという野望の実現に向け、個性豊かな住人達の日々が動き出す。夢中になれることがあるということ、同じ目標を持つ仲間がいることの素晴らしさを改めて感じるのことができる一冊です。

**豊橋** **堀江萌さんオススメ**

『紙つなげ！彼らが本の紙を造っている：再生・日本製紙石巻工場』  
佐々涼子 著 (早川書房 2014) 名図開架 585.067:N71

大切な本や漫画の「紙」。今までに素材の紙に目を向けたことがありませんか。どこで作られたのか知っている人は一体どれほどいるのでしょうか。2011年3月11日・東日本大震災で、国内書籍用紙の約4割を生産する日本製紙石巻工場津波に呑まれ、誰も「工場は死んだ」と口にすることで被害を受けました。そこから、不可能といわれた半年での復興に挑んだ従業員たちの闘いが描かれています。美談だけでは語れない現実を通して、紙の本がもっと大切に思えてくる一冊です。

